

九重山の噴火警戒レベル

レベル (キーワード)	火山活動の 状況	住民等の行動及び 登山者・入山者等 への対応	実施される 規制や防災対応
レベル5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している	危険な居住地域からの避難等が必要	2km以内で、法華院温泉は避難、長者原は避難準備、やまなみハイウェイは長者原から牧の戸間は通行止
レベル4 避難準備	居住地域に重大な被害が発生すると予想される	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要配慮者の避難等が必要	2km以内で、法華院温泉は避難準備、長者原は注意喚起、範囲内のやまなみハイウェイは駐停車禁止
レベル3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要配慮者の避難準備等 登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等	火口から概ね1.5km以内の立入禁止 法華院温泉は注意喚起 主な登山口に通できない登山道を示した看板の設置
レベル2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活 火口周辺への立入規制等	火口から概ね1km以内の立入禁止 主な登山口に通できない登山道を示した看板の設置
レベル1 活火山であることを留意	火山活動は静穏 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる	状況に応じて火口内への立入規制等	火口から概ね500mの立入規制等



問い合わせ先

- ◆火山活動について
 - 大分地方気象台 TEL097-532-2247
 - 福岡管区気象台火山監視・情報センター TEL092-725-3606
- ◆防災対応について
 - 九重町危機管理情報推進課 TEL0973-76-3801
 - 竹田市総務課 TEL0974-63-4800
 - 由布市防災安全課 TEL097-582-1111
- ◆このしおりについて
 - 大分県生活環境部防災対策室 TEL097-536-1111

九重山の特徴

九重山は、大分県玖珠郡九重町南部から竹田市北部にかけて東西15kmにわたって分布する20以上の火山の集合で、1,700m級の火山が群立しています。

これらの地域は、阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、春に咲き誇るミヤマキリシマをはじめ四季折々の景観を我々に楽しませてくれます。



北大船に咲き誇るミヤマキリシマ

また、くじゅう坊ガツル・タテ原湿原

は、国際的に重要な湿地として2005年にラムサール条約湿原へ登録されるなど、貴重な自然が多く残っています。

九重山のこれまでの火山活動

九重山は、約15万年前から活動を開始した活火山で、噴火によって大量の溶岩流や火山灰、火砕流などの噴出を繰り返してきました。

久住山 星生山 三俣山
大船山 高塚山 前岳 平治岳



由布市庄内町から九重山を望む

最近5,000年の間は、1,000年程度の間隔で大船山付近にある米窪火口などから噴火が発生しており、約1,700年前に黒岳溶岩を流出した噴火が最後の大規模なマグマ噴火となっています。

また、星生山(ほっしょうざん)の北東側山腹には活発な噴気孔群があります。

近年では、1995(平成7)年10月11日に、星生山東山腹(硫黄山)で噴火が発生し、火口から約100mの範囲にこぶし大の噴石が飛び、噴火の初期には火口から出た熱水によって土石流が発生し、谷に沿って数100m流れ下りました。



1995年硫黄山の噴火

火山防災のしおり

大分県の く じゅう さん **九重山** 活火山

～登山や観光に訪れる方へ～



九重町・竹田市・由布市
大分県



大分県応援団「鳥」「めじろん」



日本一のおんせん県おおいた

活火山で登山や観光を行うときは

登山や観光等で活火山に立ち入るときは、火山活動が活発になった場合に適切な避難ができるよう、あらかじめ必要な準備をしましょう。

活火山に立ち入る場合の適切な準備は、平成27年7月に改正された活動火山対策特別措置法でも求められています。(第11条第2項)

情報を確認する

火山地域へ入山する場合は、事前に火山防災マップや最新の火山活動の状況等を確認しましょう。

大分県では、事前確認が必要な情報をまとめたホームページを設置していますので、参考にしてください。

大分県ホームページ

・事前の情報収集のページ

大分県火山 情報収集

検索



大分県ホームページ
QRコード

観光に訪れる方は

火口周辺へ観光に訪れる場合は、規制範囲に立ち入らないようにしましょう。火山活動に異変があった場合は、施設管理者の指示に従って行動して下さい。



活火山によっては、ロープウェイや自家用車などで火口周辺へアクセスできる環境が整備されているところもあります。

登山する方は

登山は、素晴らしい環境等を楽しめ、目的地への到達による達成感を味わうことができます。その一方で、遭難や転落など、命に関わる危険性があり、活火山に登る場合は、「噴火のおそれ」というさらに危険な要素が加わります。登山にあたっては、準備をしっかり整えて臨みましょう。

◆装備について

火山の状態や特性を踏まえ、以下のような物の中から、必要なものを用意して登山に臨みましょう。

【必ず持参するもの】

- 携帯電話等の通信機器
※電源は切らないようにしましょう
※電波が届かない場所もあります

- 登山地図、コンパス
- 非常食、飲料水
- その他登山に必要な装備

【火山活動の状況によって持参するもの】

- 火山防災マップ
※防災マップの内容は、必ず登山前に確認しましょう
- ヘルメット、ゴーグル、マスク
※噴石や火山灰から身を守る装備です



◆登山届について

登山の際には、登山届を必ず提出しましょう。

山岳遭難事故発生時の救助・捜索活動のため、大分県山岳遭難対策連絡協議会や各警察署では、登山届を受け付けています。



インターネットによる
届出のページ
QRコード

登山届の届出方法

- ・各警察署へ届出
- ・主要な登山口に設置している記帳台で記入し、届出ポストへ投函
- ・インターネットによる届出

大分県 登山届

検索



(登山届記帳台設置例)

いざというときは

異常な火山活動により入山規制等が行われた場合や、突発的な噴火が発生した場合は、次のとおり適切な防災行動をとってください。

◆火山活動の異変により、入山等が規制された場合(噴火前)

入山規制等の情報を入手したときは、想定される噴火口を避け、速やかに規制範囲外へ移動しましょう。

噴火のおそれが高まり、入山等が規制される場合、携帯電話の緊急速報メールなどで避難が呼びかけられます。

避難!



◆突発的な噴火が発生した場合

噴石から身を守るために

爆発的な噴火によって火口から飛散する噴石は、その大きさによって防災対応が異なります。

《大きな噴石(概ね50cm以上)》

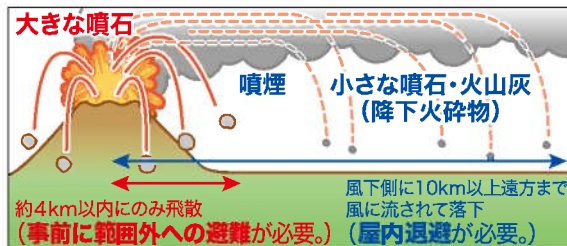
・噴火前に危険な範囲から離れる必要があります。

《小さな噴石(概ね50cm未満)》

- ・屋内などに退避して安全を確保しましょう。
- ・付近に身を隠す場所がない場合は、ヘルメットを装着し、身を隠すことができる場所まで移動して下さい。
- ※ヘルメットを持たない場合でも、リュックサック等の荷物や腕で頭部を覆うなど、その場でできる対応で頭部を守りましょう。



「大きな噴石(2005年浅間山、気象庁提供)」



火山灰から身を守るために

マスクやゴーグルを装着し、火山灰が体内に入らないようにしましょう。

火山灰は、目のかゆみ、痛みや充血を引き起こし、体内に吸い込むと咳や呼吸困難など呼吸器に影響を与えます。

火山ガスから身を守るために

息が苦しくなるなどの異常を感じたときは、速やかに窪地や谷から移動しましょう。火山ガスは、水に吸収されやすい性質があるため、濡れタオルなどを口に当てることも有効です。

火山ガスには有毒成分が含まれ、濃度によっては生命に危険が及ぶ可能性があります。火山ガスは空気より重いので、火山地域の窪地や谷などに溜まっていることがあります。



九重山火山防災マップ

水蒸気噴火による噴火現象(硫黄山周辺)

硫黄山周辺では、水蒸気爆発による噴火活動が、少なくとも約1,700年前以降、何度も発生しており、今後とも長期にわたって、硫黄山周辺で水蒸気噴火を行う可能性が高いと考えられています。

マグマ噴火による噴火現象(九重山全体)

九重火山群におけるマグマ噴火による噴火活動は、長期的には九重山の西部から東部へと移動しています。最新のマグマ噴火は、1,700年前頃の黒岳溶岩及び黒岳火砕流ですが、今後長期的な火山活動の視野に立つと、噴火口の位置を想定するのは難しい状況です。



立ち入り禁止区域
平成7年の噴火に発生した火口(現在は沈静化)への滑落や火山ガス発生への恐れによるもの(一部登山道通行可)

硫黄山で水蒸気噴火が発生した場合

記号の色と意味

- 火口から2km (噴火警戒レベル4・5)
- 火口から1.5km (噴火警戒レベル3)
- 火口から1km (噴火警戒レベル2)

水蒸気噴火が考えられる場合の噴火警戒レベルに基づく規制

火山活動の状況を踏まえて噴火警戒レベルが設定され、大きな噴石(50cm以上)の飛散等が考えられる範囲の立入等が規制されます。

大きな噴石の飛散が考えられる範囲外であっても、小さな噴石(50cm未満)が風に流されて飛散する可能性があります。

所要時間 登山道 (所要時間は目安です)

休憩小屋 (噴火時には使えません)

想定火口 想定火口位置(硫黄山)

火山灰が積もった後に雨によって土石流が流れる予想範囲

火山灰が積もった後に雨で発生する土石流の流れる予想範囲です。川沿いの低い場所を流れます。

土石流氾濫予想範囲

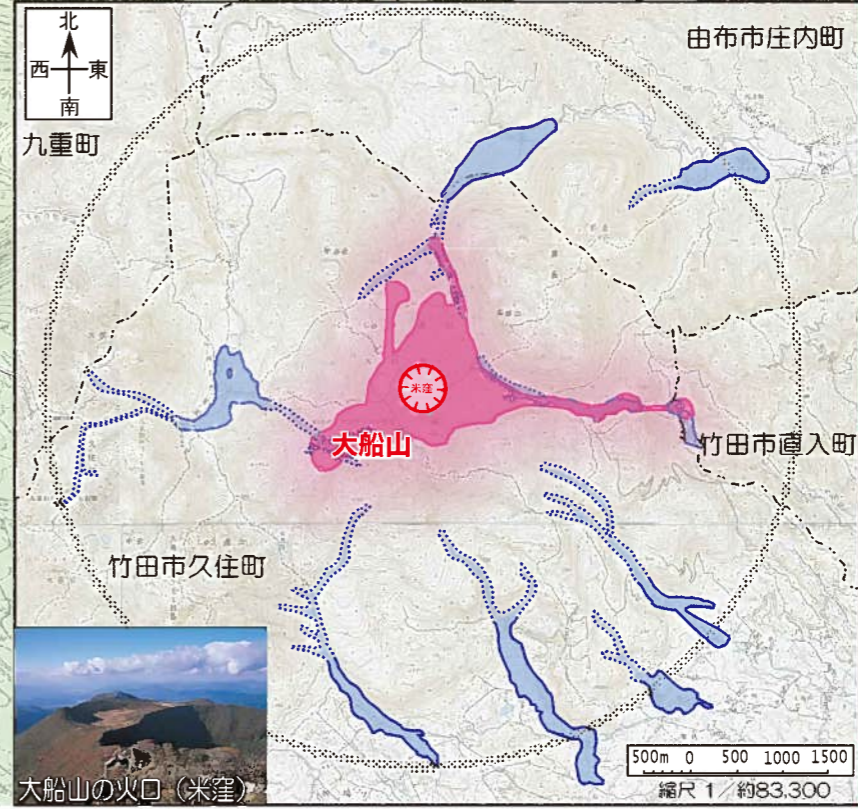
火山ガスが溜まりやすい範囲

普段から注意が必要

普段から火山ガスが溜まりやすい範囲です。

大船山でマグマ噴火が発生した場合

九重山は、マグマ噴火の火口位置を想定することが難しいため、マグマ噴火のイメージをつかむための事例研究として、大船山の米窪火口から噴火した場合の被害想定区域図を作成しています。



記号の色と意味

- 想定火口位置
- 噴石 (「ぶし大」の噴石が飛んでくる危険性のある範囲です。)
- 流下区間
- 土石流氾濫範囲 (土石流が流れ下る危険性の大きい沢と土石流が氾濫堆積する予想範囲です。)
- 火砕流本体部
- 火砕サージ (火砕流熱風部)
- 溶岩流流下範囲 (上の図に示しています)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平15九複第236号)